

平成27年一番茶実収報告

京都府農林水産技術センター
農林センター茶業研究所

1. 摘採日

仕立て法	本年	前年	前5か年	平年
自然仕立て	4月30日	5月10日	5月9日	5月7日
弧状仕立て	5月2日	5月9日	5月10日	5月7日

注) 平年は、平成6年～平成26年までの21年間の平均値

2. 生葉収量 (kg/10a)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	収量	指数	収量	指数	収量	指数
自然仕立て	507.6 ± 59.1	71	744.5 ± 56.7	104	714.8 ± 62.8	100
弧状仕立て	325.5 ± 82.6	87	285.4 ± 88.2	76	375.7 ± 86.9	100

3. 百芽重 (g)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	重量	指数	重量	指数	重量	指数
自然仕立て	46.0 ± 4.0	89	47.0 ± 4.5	91	51.6 ± 4.1	100
弧状仕立て	73.0 ± 13.5	164	42.6 ± 8.1	95	44.6 ± 7.9	100

4. 新芽数 (本/m²)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	新芽数	指数	新芽数	指数	新芽数	指数
自然仕立て	460.8 ± 62.5	61	865.2 ± 41.2	114	756.4 ± 82.6	100
弧状仕立て	1121.7 ± 134.3	64	1896.7 ± 399.7	109	1742.6 ± 397.3	100

注) 自然仕立ての数値は、20cm幅帯摘みの新芽数

5. 出開き度 (%)

仕立て法	本年	前年	前5か年平均
自然仕立て	35.9	67.8	50.5
弧状仕立て	40.2	77.4	79.7

6. 概要

(1) 摘採日

本年は、自然仕立て園、弧状仕立て園ともに萌芽日が前年より早く、萌芽後の気温も高く推移したことから、一番茶摘採日が自然仕立て園では4月30日で前年より10日早く、前5か年平均より9日早かった。弧状仕立て園では5月2日で前年より7日早く、前5か年平均より8日早かった。

(2) 生葉収量

10a当たりの生葉収量は、自然仕立て園、弧状仕立て園ともに新芽数が少なかったことから、自然仕立て園では507.6kg、弧状仕立て園では325.5kgと前5か年平均より少なかった。

(3) 病害虫の発生状況

チャノコカクモンハマキは、5月までの越冬世代のフェロモントラップへの誘殺数は平年並、誘殺ペースは平年並で経過した。

チャノホソガは、フェロモントラップへの越冬世代の誘殺数は平年並、半数誘殺日は平年よりやや早かった。

一番茶期の当所茶園における病害虫の発生は少なかった。一部カンザワハダニの発生が見られた。

(4) 周辺茶園の状況

全農京都茶市場への府内出荷量は、てん茶(手摘み)は93.9%と前年より少なく、煎茶は99.1%で平年並であった。(6月9日現在)

煎茶地帯では、生育時期の平均気温が高く、平年より摘採が早まった。また、芽立ちが荒く、収量が平年より減少した茶園が見られた。